

写真で見る当行の東日本大震災復興への取り組み



①女川支店
三陸沿岸の地域には、高さ10m以上の大津波が押し寄せ、町全体が流出する壊滅的な被害となった。当行支店も建物外枠のみを残し、全てが流出・全壊した。



④がれきが散乱する店内で重要物の回収等にあたる志津川支店職員



⑤歌津支店
⑥志津川支店



③津波が引いた後、店内を手分けて整理する気仙沼支店職員

平成23年 3月11日(金)～

震災直後

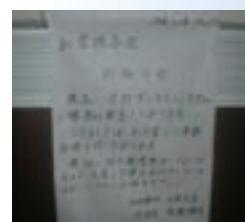
平成23年3月11日に発生した東日本大震災により、沿岸の5店舗が大津波で全壊したほか、多数の店舗や店舗外ATM等において浸水・損壊が発生しました。

平成23年 3月15日(火)～

職員による懸命な復旧作業

大津波の被害を受けて全壊・浸水した店舗では、ライフラインが復旧しないなか、職員が一日も早い営業再開を目指して、がれき撤去等の復旧作業を行いました。

⑨移動バスでの気仙沼支店仮設窓口(気仙沼商工会議所)



⑩大規模停電でオンラインが不通のなか、手作業で預金払戻しを行う(石巻支店)



⑧中里支店内に移転した雄勝支店



⑨プレハブ建物での気仙沼支店仮設窓口(気仙沼商工会議所駐車場)

⑪新設した店舗外ATM「ダイシン気仙沼出張所」



⑦津谷支店内に移転した歌津支店

平成23年 3月23日(水)～

仮設窓口・移動バスによるお客さま対応

沿岸部地域では、当行職員が移動バスによる避難所への訪問やプレハブ設置等により、被災されたお客さまの預金払戻しや相談に応じました。

平成23年 4月20日(水)～

店舗移転等による営業再開

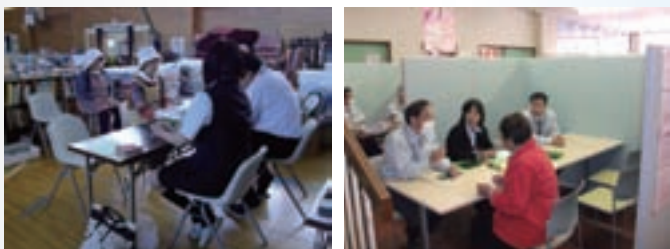
大津波により浸水した店舗では、現店舗や仮設店舗で順次営業を再開しました。また、建物が全壊した5店舗では、近隣店舗内へ移転のうえ営業を再開しました。



⑥震災直後の気仙沼支店内部
⑦雄勝支店のみを残して周囲の建物は全て流出



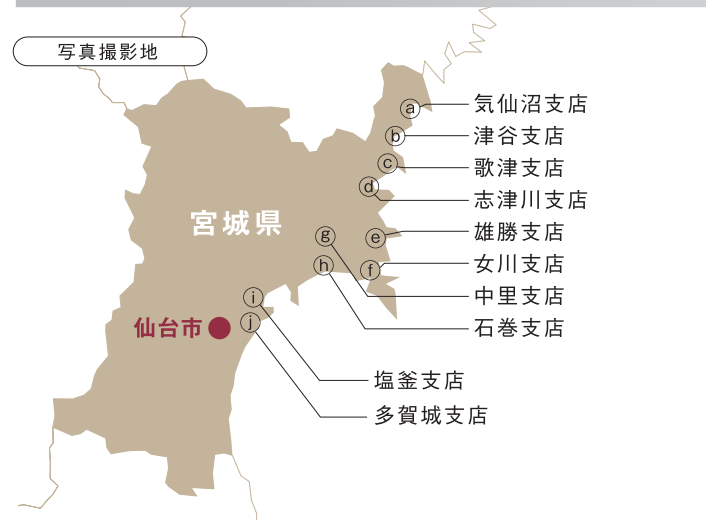
①被害がなかった支店2階へ重要書類を移動(多賀城支店)
①津波で浸水した書類や備品を撤去(多賀城支店)



⑥避難所での雄勝支店仮設窓口(石巻市立大須小学校)
①避難所での女川支店仮設窓口(女川町総合体育館)



①仮設店舗で営業を再開した塩釜支店
①塩釜支店の仮設店舗窓口



①津波で浸水した伝票を1枚ずつ広げて乾かす(多賀城支店)
①津波に含まれた重油が建物内に残る多賀城支店内部。津波により店内の全てが浸水し、端末機等は全て使用不能となる



店舗を移転のうえ営業再開した気仙沼支店と職員

「ふるさと宮城」の復興にかける思い 仙台銀行気仙沼支店長 庄司 衛

過去に経験したことのない大きな揺れと直後の巨大津波に多くの尊い人命が奪われ、美しい街並もがれきの山と化しました。当気仙沼支店の再開も2ヶ月を要し、その間移動バスやプレハブ内での一部営業を余儀なくされ、お客さまには大変なご不便をおかけいたしました。気仙沼市は、遠洋マグロやカツオ、フカひれ等の新鮮な魚類、良質な水産加工品、冷凍・冷蔵やその運搬、造船・修理に至るまで、高い技術力と誠実さを誇りとする企業と人材が整った街です。地域経済の担い手は中小企業であり、志(こ

ころざし)の高い経営者とそこに働く勤勉な従業員がその実践者なのです。大震災でその多くの企業が設備や原材料等を失ったことは経営の失敗ではありません。必ず立ち上がることができます。復興の現場には国民の英知の結集と物的・金銭的支援が不可欠であります。被災地の現場はますます忙しくなりますが、当行の企業理念である地域密着を實踐し、地域のお客さまとともに「ふるさと宮城」の復興に向け、精一杯汗を流していくことを当行全職員で決意しております。